

人形遣いが
だんだん
人形の中へ



溶け込んでいく、魔術

— 唐十郎

結城座の舞台を見ていると、「糸」とは何かを問いかけてきます。それは可視化された絆なのではないか。客観化された劇空間ながら、やがて台詞を言う人形遣いはだんだん人形の中に溶けこんでいくように見えてきます。魔術のような力を持った舞台だと感じました。

人形遣いの腹巻の中に人形を納めて、風に向かって行脚していく風の旅団というのが、結城座に対する僕のイメージなんです。

長い歴史ゆえの
説得力と
洗練された芸の力

— 市川染五郎

糸あやつりの人形は、あれだけ顔が小さいのに、喜怒哀楽が見えてくるから不思議です。最初はどうか考えてながら見ていたのですが、いつの間にか人形ということを全く忘れていました。

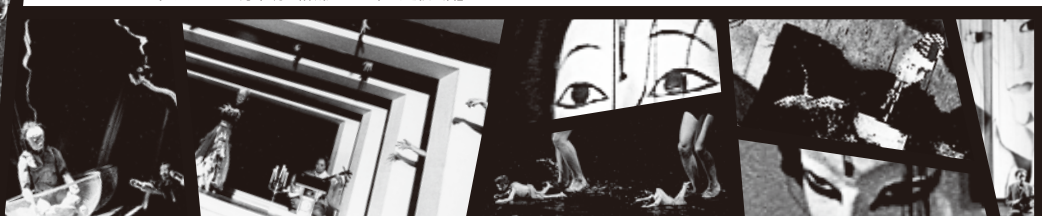
結城座の舞台には、長い歴史をお持ちであるがゆえの説得力と洗練された芸の力を感じます。古典をやりつつ新しい作品も作るなど、現代の演劇として生き続けたいという覚悟を感じさせる一座だと思います。

三 結城座

日本文化が華開いた江戸時代
寛永12年(1635年)に
初代・結城孫三郎が日本橋で旗揚げし、
幕府公認の一座となる。
2014年に創立380年を迎える。
古典や伝統の深化とともに、社会風刺や
前衛の精神を舞台に投影している。
日本はもとより世界50カ国で公演を重ね、
国と都の無形文化財に指定されている。
日本唯一の糸あやつり人形劇団でもある。

結城座
380
周年

LIXIL BOOKLET 『糸あやつりの万華鏡 結城座375年の人形芝居』より



オールドリフレイン

All Drifrain

あらすじ

老女が一人、屋根裏部屋で歌を口ずさんでいる。彼女は「戀(こい)」を待ちながら、人々に忘れ去られた作家である。周囲には骸骨が現れ、死へと誘う。やがて老女が眠りにつくと、トランクを抱えた男と大阪の少年がやってくる。男はトランクに戀を閉じ込めていた。そして若き日の「私」小野町子が、亡者と生者の世界を彷徨いながら、夢と現(うつ)が交差して……。

近年、再評価が高まる尾崎翠の『第七官界彷徨』が原作です。三本のワルツ、ウンコの鋼、蚊男など、刺激的なメタファーとともに、晩年の尾崎の姿である老女と若き日の町子が恋の行方を手繰ります。

1987年に劇団300で初演された話題となった不朽の名作が、人形芝居として生まれ変わります。結城座ならではの不思議で幻想的な世界をお楽しみ下さい。

脚本・演出
渡辺えり

演出家・劇作家・女優。結城座とは2007年『森の中の海』以来の顔合わせ。今回、演劇人として渡辺えりが大切にしている脚本と演出を担う。原作は世に出ない女流作家・尾崎翠の『第七官界彷徨』。劇団300時代に書き下ろした、恋と文字の人生譚。

人形美術
宇野亞喜良

イラストレーター・グラフィックデザイナー。50年代より日本のイラストレーション界を牽引。結城座とは2009年『乱歩・白屋夢』、2010『浮世の奈落 黙阿彌X』にて、幻想的なその世界を呈示している。

2014年 10月2日(木)～5日(日) 座・高円寺2

10/2(木) 10/3(金) 10/4(土) 10/5(日)
14:00
19:00

開場は開演の30分前。受付開始は1時間前より
★アフタートークあり 10/3(金)19:00 渡辺えり × 結城孫三郎
10/4(土)19:00 宇野亞喜良 × 結城孫三郎

チケット料金 全席指定 5,500円
学生割引 3,000円(結城座のみ取り扱い)

チケット DM会員先行予約 7月2日より
(結城座のみ取り扱い。特別割引あり。登録すぐにご確認ください)
一般前売り発売 7月16日より

チケット取扱 結城座 042-322-9750 (平日10時～18時)
オンラインチケットサービス <http://www.youkiza.jp/>
チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp/> Pコード 437-383
イープラス <http://www.eplus.jp/>
座・高円寺チケットボックス(月曜定休) 03-3223-7300(10:00-18:00) 窓口(10:00-19:00) <http://za-koenji.jp>



〒166-0002 杉並区高円寺北 2-1-2
03-3223-7500
JR中央線「高円寺」駅北口を出て徒歩5分
土・日の中央快速は高円寺に停車しませんのでご注意ください

特別出演
田中純

喜演
湯本アキ
久野綾希子
菅野久夫
紺野相龍
立花弘行
鹿野真央 (文学座)

出演

結城孫三郎
結城千恵
荒川せつ子
結城育子
結城数馬
岡 泉名
柴田恵
真野東洋
田中友紀
湯本アキ

脚本・演出 渡辺えり
人形美術 宇野亞喜良
舞台美術 伊藤雅子
照明 宮野和夫
音響 城戸智行
舞台監督 榎 太郎
演出助手 石田恭子